

## 山形新聞 2013/12/07「談話室」

〈2013年12月7日〉

### 談話室

▼▽日本国憲法の草案作成に携わり米進駐軍と渡り合った白洲次郎は、山形市蔵王温泉を「東洋のサンモリッツにした」と語ったという。東北電力初代会長を務め、気に入った蔵王に山荘「ヒュッテ・ヤレン」を建てた。

▼▽東京のNPO法人「元氣・まちネット」が白洲山荘の保存に動き、今年改修して創建当時の間取りを再現した。スイス有数のリゾート地サンモリッツのような通年観光を目標に掲げ、来年6月には山荘の名前を冠した山岳マラソン大会を蔵王で初めて開く計画を進めている。

▼▽きょうは二十四節気の大雪。蔵王や鶴岡市の湯殿山、米沢市の天元台高原でスキー場開きなどが予定されている。バブル経済がはじけてスキー人口は激減したが、かつてブームに乗って楽しんだ40代以降が家族を連れてゲレンデに戻るなど、全国的には明るい兆しも見える。

▼▽白洲山荘は「(スキーは)ヒュッテとやれん」が名前の由来とか。芸術家の岡本太郎も蔵王が大好きで、転ぶと「重たい、重たい。地球がおれの上に乗ってきた」と言って笑わせたという。県内のスキー場周辺は自然豊かで著名人の逸話も多い。四季を通し魅力を高めたい。